

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105230号		
法人名	医療法人 春風会		
事業所名	グループホーム はるかぜ新屋敷		
所在地	〒892-0838 鹿児島県 鹿児島市 新屋敷町 4番1号 (電 話) 099-222-0321		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年3月28日

【情報提供票より】(平成21年 2月 18日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 22 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 7人, 非常勤 10人, 常勤換算	14.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 1 ～ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	18,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 26日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	6名	要介護2	3名
要介護3	6名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.6 歳	最低 75 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院、西歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市内の中心部に位置し甲突川沿いの緑地公園にも近く、気軽な外出や買い物など交通の利便性にも恵まれたホームである。地域との交流を大切にして、清掃活動や校区運動会に参加したり、ボランティアの受け入れなど行なっている。職員の資格取得にも積極的に取り組みがなされ、ホーム内での定期研修や外部研修にも参加して職員を育てている。職員同士仲がよく、おだやかな日々のケアの取り組みがなされている。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 定期的にホーム便りを発行し家族へ個々の生活の様子等を報告したり、また金銭管理を行なっているため小遣い帳の確認もしてもらっている。職員の異動報告は面会時に行なうなど、改善への取り組みがなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が自己評価を行ない、管理者がまとめる形になった。昨年の外部評価の結果についても全職員で話し合いを行い、支援の向上の取り組みがなされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では外部評価の報告や地域の行事への参加等の話し合いがなされている。状況報告や地域、家族と話し合いながら、サービス向上に努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時に声かけを行い、家族の意見や要望を聞いている。不安への対応の取り組みもなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の清掃活動や校区運動会等の行事へ参加して交流を図っている。また、防災訓練も近隣、消防団の方々の参加・協力を得ながら行なっている。踊りのボランティアの訪問があったり、保育園のお遊戯会等にも参加している。高校生の実習の受け入れも行なうなど地域との交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人のグループホームと共通の理念を掲げている。		事業所独自の理念が作られることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を唱和し確認しながら、日々のケアに取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の清掃活動、校区運動会等に参加して地域との交流を図っている。ボランティアの訪問、保育園の子供達との交流、高校生の実習の受け入れも行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が自己評価を行い、管理者がまとめ上げた。全職員が外部評価の意義を理解し、話し合いを行いながら、改善点に対しては見直しへの取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行われていて、ホームの状況報告や地域、家族の意見を聞きながら話し合いを行いサービスの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターとの連携を図りながら、市の介護相談員にも来てもらっている。いろいろな情報交換を行ないながら、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りを発行し家族へ個々の生活の様子等を報告している。また、金銭管理を行っているので小遣い帳の確認もしてもらっている。職員の異動報告は、面会時に行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には声かけを行い、話を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、利用者との馴染みの関係を大切にしているため、異動は最小限にしている。新しい職員が入ってきた場合は、利用者の馴染みの関係ができるまで担当の職員と一緒にケアを行なう体制ができている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や定期の勉強会を行なっている。また、外部の研修会にも参加している。職員は資格取得に前向きであり、管理者も職員の資格取得を支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入し、研修会や交流会に参加している。昨年は、地域包括支援センターの声かけで近くのグループホームとの交流を図ることができた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	電話での申込が多いが、家族と利用者に来ていただき、職員や他の利用者に馴染めるよう家族と相談しながら取り組みを行なっている。居宅からの依頼時は、自宅を訪問して馴染みの関係を作るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干の作り方、そば打ちの仕方等を教わりながら、利用者との会話の中から身体状況や気持ちを汲み取り、人生の先輩であるという考えを職員が共有し、お互いに支えあう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人・家族に声かけをし、会話や表情・行動等を見ながら、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、職員が話し合いを行ったりしながら本人本位に検討を行なうように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を行い、家族・本人の思いや意見を聞いたり、ミーティング時に意見交換を職員と行いながら、介護計画の作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、状態の変化が生じた場合や必要時には、本人、家族、職員と話し合いを行い、検討・見直しが行なわれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物、通院介助、自宅訪問等、利用者・家族の要望や状況に応じて、多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院の受診をしている利用者が多いが、家族と連絡を取りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医・本人・家族と意志確認を行ない話し合いをしている。運営者や職員ともよく相談をしながら、全職員で方針を共有している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の接し方や排泄時の声かけ等、さりげなくプライバシーに配慮しながら行なうようにしている。記録や個人情報についての取り扱いには、配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが、起床時間や朝食時間は一人一人のペースを大切にしながら、利用者の希望にそって支援できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立を作成している。職員と利用者は、野菜を切ったり、下ごしらえを行ないながら、同じテーブルで一緒に食べている。また、片付けも一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や本人の希望を聞きながら、入浴支援を行なっている。入浴を拒む人には様子を見ながら声かけをするなど工夫し、入浴支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除をしたり、梅干作り、桜餅のつくり方を教えてもらったり、そば打ちの仕方等、利用者一人ひとりの役割や楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけている。買い物やドライブ等、利用者の希望にそって、日常的に外出の支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることへの弊害を理解している。職員が目配り、気配りを行ないながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	安全対策マニュアルを作成し、年2回地域の方々や消防団の協力をもらいながら、夜間想定・消火器の使い方等の避難誘導・消防訓練を行なっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嗜好、栄養のバランス、水分のチェックを行なっている。栄養バランスにも配慮された献立が工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいきりびんぐで、ゆったりと日々を過ごしている。玄関には花が活けてある。また、畳の部屋があり、利用者が居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用のテレビやラジオ・筆筒・椅子・テーブル・家族の写真・人形・ポット等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式 1）を添付すること。